

平安時代の七夕飾りを再現しました

## 第16回「乞巧奠（きっこうでん）」飾り



大宮八幡宮（大宮2-3-1）では15日（火）まで「乞巧奠」の飾りを一般公開しています。「乞巧奠」とは平安時代の宮中を中心に行われていた七夕行事で、大宮八幡宮では短冊のルーツと言われる梶の葉や五色の紙垂（しで）の飾りを再現しています。そのほか、技芸の上達を願いながら潜ると、その願い事が叶うと言われている「乞巧潜り（きっこうくぐり）」の体験もできます。本日は近隣の大宮幼稚園の年長組の園児36名も見学を訪れ、手を合わせて願い事をしながら、五色の布の間を潜り抜けていきました。

大宮八幡宮では七夕の起源を知ってもらおうと、「乞巧奠（きっこうでん）」飾りの一般公開を平成11年から行っています。「乞巧奠」は、もともと中国の魔除けの風習でしたが、日本の「棚機つ女（たなばたつめ）」の信仰に牽牛・織姫の星祭りが重なり、平安時代には宮中を中心に、技芸の上達を祈る七夕行事として行なわれていました。

大宮八幡宮の清涼殿ロビーでは、短冊のルーツと言われている、葉の大きさが約20cmほどの桑科の梶の葉や、青（緑）・赤・黄・白・紫の五色の紙垂（しで）を四方にめぐらせ、詩歌・管弦・裁縫などの上達を祈り、筆硯や琵琶、和琴、笙（しょう）といった雅楽器、五色の糸・布、スイカなど季節の食材をお供えして飾られています。また、本殿の神門前には、技芸の上達を祈りながら潜ると願いが叶うとされる「乞巧潜り（きっこうくぐり）」が設けられています。竹を組み五色の布を垂らした高さ2メートルほどの「乞巧潜り」は大宮八幡宮でしか見る事ができません。



11時、「乞巧奠」飾りを、隣の大宮幼稚園の年長組さん36人が見学に来ました。子どもたちは、「いろいろな色があつてきれい!」「こんなの初めてみた!」と、夢中で見学していました。その後、神門前の「乞巧潜り」を「サッカーが上手になりますように」「一輪車に乗れますように」などと手を合わせて願いながら、五色の布の間を潜り抜けていきました。

### 大宮八幡宮 第16回「乞巧奠（きっこうでん）」飾り

7月1日（火）～15日（火） 9:30～18:00

◆雅楽の夕べ（雅楽と神楽の演奏会） 7月5日（土）・12日（土）17:00～

◆七夕の神遊び（七夕祭）～技芸上達祈願祭～ 7月7日（月）18:00～

【場 所】大宮八幡宮 清涼殿ロビー（大宮2-3-1）

【交 通】電車：井の頭線 西永福駅より徒歩7分 バス：JR新宿駅西口ターミナル17番乗り場・JR中野駅南口・JR高円寺駅南口より、永福町行きバスで「大宮町」下車

#### 【問い合わせ先】

大宮八幡宮 TEL：3311-0105

総務部広報課 TEL：3312-2111